

ウズベク語における接尾辞-diの未来を表す機能について

羽生田 真由

(言語文化学部 ロシア語専攻)

キーワード：接尾辞-di, 確定未来, 目的語, 1人称, 瞬間動詞

0. はじめに

ウズベク語はチュルク諸語に属し、主にウズベキスタンを中心として周辺の中央アジア地域やロシアなどに話者が存在する(庄垣内 1988: 829 要約)。ウズベク語における過去接尾辞-diはまれに確定未来を表すことがある。その出現条件について明確に記述された研究は管見の限りでは見当たらない。本稿では、確定未来を表す接尾辞-diの出現条件について、母語話者との面接調査を行い、分析をする。本文中の例文番号、グロス、日本語訳、図表、網掛けは特に断りのない限り全て筆者によるものである。なお、本稿におけるウズベク語の文字表記については、特に断りのない限り、ウズベキスタンで1993年に制定されたラテン文字の新正書法を使用する。

1. 先行研究

以下にウズベク語における接尾辞-diに関する先行研究を1.1節から1.3節まで挙げる。卒業論文にて記載したKononov(1960)、Abdurahmonov(1975)については、紙幅の都合上割愛した。1.4節ではウズベク語の接尾辞-diのはたらきの補足として、ウズベク語と同じチュルク諸語であるトルコ語の文献の林(2013)を取り上げる。

1.1. Bodrogligeti (2003)

Bodrogligeti(2003: 676)は、接尾辞-diが確定未来を表す用法について、「ある特定の定過去を表す過去時制のテンスは、現在の時間において未来のアクションを示すが、その未来のアクションは、終了したことと同様である」と述べている。以下にBodrogligeti(2003: 676)による例文を示す。なお、確定未来を表す接尾辞-diには下線を引いた。

(1) Ket-di-k. Qishloq-qa qayt-ish kerak.

去る-PST-1PL 村-DAT 戻る-VN 必要な

「さあ行こう。私たちは村に帰らなければならない。」

(2) Xolmurod to‘plan-gan kishi-lar yon-i-ga bor-di. Salom

ホルムロド 集まる-PTCP.PST 人々-PL そば-3SG.POSS-DAT 行く-PST 挨拶

ber-di-k, de-di u ovoz-i sal titra-b.

する-PST-1PL 言う-PST 3SG 音-3SG.POSS 少し 震える-CONV

「ホルムロドは集まった人々のそばへ行った。『皆に挨拶をしよう』と彼は声を震わせながら言った。」

## 1.2. 中嶋(2015a)

中嶋(2015a: 79)は、接尾辞-diの用法について大きく3つに分けることができると述べている。その1つに、確定未来を表すという分類がある。それを以下に示す。なお、例文の日本語訳は中嶋(2015a: 79)によるものである。

- (3) Oshxona-ga ket-di-k, bor-a-miz=mi? — Ket-di-k.  
食堂-DAT 去る-PST-1PL 行く-PRS-1PL=Q 去る-PST-1PL  
「私たちは食堂へ行きましょうか?—行きましょう。」

中嶋(2015a)は、確定未来の表現をつくる条件について明確に記述していない。

## 1.3. ハルナザロフ(2010)

ハルナザロフ(2010: 352)は接尾辞-diのはたらきについて以下の例文を挙げている。なお例文のグロスは、ハルナザロフ(2010: 352)による。

- (4) さあ、(私たちは)行くよ。  
Qani ket-di-k.  
さあ 行く-単純過去-1人称複数

例文(4)については、「この場合、単純過去形を使う。」との記述があるのみである。

## 1.4. 林(2013)

林(2013)はトルコ語の文法書である。トルコ語では過去を表わす場合、動詞語幹に接尾辞-Di<sup>1</sup>を付属させることで表わすことができる。林(2013: 123)は過去形における確定未来について次のように述べている。

gel「来る」や git「行く」といった動詞の過去形は、ほんの数秒あるいは数分後に話し手が実行しようとしている行為を表すことがある。全く同様の文を過去時制の意味として解釈することも可能であるが、確定未来を表す場合、主語は1人称に限られる。

- (5) Ben gel-di-m.  
私 来る-PST-1.SG  
「私はすぐ(あなたのところに)来る(行くよ)。」(林 2013: 123)

このように林(2013)は、トルコ語には、ウズベク語における接尾辞-diと似たはたらきを持つ接尾辞-Di<sup>1</sup>が存在すると述べている。これは主語が1人称の場合にのみ、過去時制及び確定未来の表現の両方を表し得るという。

<sup>1</sup> トルコ語は母音調和を持つ言語である。基本的には前舌母音と後舌母音の対立から成る。動詞語幹末の母音によって、接尾辞の母音も交替する。さらに語幹末の子音により接尾辞頭の子音も交替する。本節における接尾辞の代表形は、林(2013)の表記に従い、交替が現れる箇所を大文字で示す。

## 2. 先行研究のまとめ及び問題点

Bodrogligeti(2003)では接尾辞-diを用いた確定未来の表現について、ある特定の定過去を表す過去時制のテンスは、現在の時間において未来のことを示すと述べられている。中嶋(2015a)では接尾辞-diは大きく分けて過去時制、確定未来、複数接尾辞の機能があると述べられているが、確定未来を表す文において過去形を用いる条件については明確に記されていない。ハルナザロフ(2010)においても確定未来の表現については、その出現条件や過去形を用いる理由についての具体的な記述はない。

林(2013)では、トルコ語における確定未来を表す文において、用いることのできる動詞は限定的であり且つ主語は1人称のみと述べられている。これとBodrogligeti(2003)、中嶋(2015a)、ハルナザロフ(2010)で見つかった確定未来を表す例文とを比較すると、これらの先行研究の例文で用いられている動詞が限定的であり、かつ人称は1人称に限られており、林(2003)で述べられていたトルコ語における確定未来の表現と類似した部分が見受けられる。

## 3. 仮説

ウズベク語における接尾辞-diを用いた確定未来の文では、用いられる主語や動詞に大きな制限がある可能性が考えられる。動詞については、先行研究においていくつか見つけることができたが、どれも自動詞であったため自動詞、他動詞によって確定未来の文に用いられるかどうかの違いがある可能性がある。トルコ語では同じ過去形を用いて過去と確定未来の両方の解釈が可能となっていたが、ウズベク語においてはそれが可能なのかについても調査する必要がある。先行研究で見られた確定未来の例文では、過去時制と確定未来の両方の解釈は文脈的に難しいと筆者は考えている。

## 4. 調査

上記の仮説の検証のため、調査I、その調査結果を踏まえた調査IIを行った。調査はどちらも母語話者との面接形式の調査である。

### 4.1. 調査 I

調査Iでは、自動詞を用いた例文と、他動詞を用いた例文を用意し、確定未来を表す場合に使用する動詞が限定的であるかどうかを調査する。さらに、接辞を替えた場合において、文に意味の差がどのように生じるのか、どのような状況で文を使い分けるのかについても調査する。接辞を替え、確定未来を表す文と似た意味になる文として、「～しよう、しましょう」という意味を表す提案形(動詞語幹+ -(a) y (lik))を用いることにする。

#### 4.1.1. 調査方法

先行研究に載っていた例文を基に、自動詞、他動詞それぞれ5個ずつ単語を選び、筆者自身が接尾辞-diを用いた例文を作成する。さらに提案形を用いて同様の意味になるように例文を作成する。これに加え、明日、明後日、1年後を表す副詞を加えたものとも比較す

る。これをインフォーマント調査として、本大学の研究生であるウズベク人留学生2名にご協力いただき、調査を行った。調査に協力いただいたのは、本大学の研究生の女性(ウズベキスタンのタシケント州出身、1991年生まれ、以後インフォーマントAとする)1人、男性(ウズベキスタンのナマガン州出身、1990年生まれ、以後インフォーマントBとする)1人の計2人である。接尾辞-diを用いた文と提案形を用いた文とで、まず先行研究にあった動詞の他に、確定未来を表しうる動詞はあるのか、さらに接辞を代えた場合や副詞を加えた場合では意味に具体的な差は出るのか、その違いは何であるかを調査した。

調査に用いた動詞、及び例文は以下の通りである。なお動詞については、ketmoq「去る」及び salom bermoq「挨拶する」は先行研究の例文より抽出し、その他については中嶋(2015a: 167-203)の語彙集より、例文を比較的作りやすいものを筆者が抽出した。

自動詞: ketmoq「去る」、bormoq「行く」、salom bermoq「挨拶する」、uxlamoq「寝る」、o'tirmoq「座る」

他動詞: yemoq「食べる」、o'qimoq「読む」、sotib olmoq「買う」、yuvmoq「洗う」、yozmoq「書く」

自動詞を用いた例文<sup>2</sup>

1. Oshxonaga ketdik./Oshxonaga ketaylik. 食堂に行きましょう。
2. Maktabga bordik./Maktabga boraylik. 学校に行きましょう。
3. Salom berdik./Salom beraylik. 挨拶をしましょう。
4. To'shakda uxladik./To'shakda uxlaylik. ベッドで寝ましょう。
5. Stulda o'tirdik./Stulda o'tiraylik. 椅子に座りましょう。

他動詞を用いた例文

6. Olma yedik./Olma yeylik. リンゴを食べましょう。
7. Kitob o'qidik./Kitob o'qiylik. 本を読みましょう。
8. Xalta sotib oldik./Xalta sotib olaylik. カバンを買きましょう。
9. Idish yuvdik./Idish yuvaylik. 皿を洗いましょう。
10. Xat yozdik./Xat yozaylik. 手紙を書きましょう。

#### 4. 1. 2. 調査結果

接尾辞-dikを用いた文と提案形を用いた文について、両者とも、ketmoq「去る」と belom salmoq「挨拶する」の2語のみが確定未来を表すとの回答を得た。なお、副詞を足した例文については、用意したすべての例文において両インフォーマントとも非文法的であるとの回答を得た。

インフォーマントAによれば、-dikは今からすぐ行う行動に対してのみ用い、明日以降で使うことはない。例文3の動詞 salom bermoq「挨拶する」では、確定未来の表現として用いるには少し堅い表現となる。

インフォーマントBによれば、例文3で用いられた動詞 salom bermoq「挨拶する」は、

<sup>2</sup> 例文の日本語訳は、接尾辞-diを用いた文が確定未来を表した場合の訳を記載した。

確定未来の表現として用いる場合、「友人と喧嘩をした翌日、気まずい雰囲気ながらも挨拶をしようとする」という皮肉の意味も込めた表現になるという。-dikは今すぐこれからやることを対象としてのみ用いるため、明日、明後日、1年後など先のことには、たとえやると決まっていることでも使うことはないという。一方、-(a)y(lik)の示す範囲は1日以内くらいであるとしている。

さらにインフォーマントの2人に、今回の調査に用いた動詞の他に、接尾辞-diを用いて確定未来の表現が可能な動詞を挙げていただいた。

yugurmoq「走る」:Yugurdik!「(さあ)走ろう！」

uyg'onmoq「起きる」:Uyg'ondik, uyg'ondik!「起きよう、起きよう」

boshlamoq「始める」:Boshladik!「さあ始めましょう」

qaytmoq「帰る」:Qaytdik!/Qaytdim. 「じゃあ帰りましょう/(私は)帰りますね」

o'zgarmaq「変える」:TV dustur zerikarli edi. O'zgardim!

「このテレビ番組つまらないね。(チャンネルを)変えるね」

qochmoq「逃げる」:Shoshing! Qochdik!「逃げ!逃げよう！」

#### 4.1.3. 調査Iのまとめ及び反省

調査に用いた例文においては、確定未来として用いることが可能な動詞はketmoq「去る」とsalom bermoq「挨拶する」の2語のみであった。他動詞の方はどれも確定未来の用法としては用いることができなかった。さらに、インフォーマントによれば、確定未来として動詞を用いる場合は今すぐに行動することが前提であるという。例文やインフォーマントに提示していただいた動詞から、確定未来を表すには自分以外に数人が関わっている状況が必要なのではないかと考えられる。今回の調査Iでは自動詞と他動詞とに分けて例文を作成したが、確定未来を表す文に用いられる動詞は、自動詞、他動詞の区別ではなく目的語を取らない形で発話されるものに限られるようである。今回の調査では自動詞、他動詞ともに5文ずつであったため、さらに用例数を増やす。なお人称の調査については曖昧になってしまったため、調査IIでさらに検討する。

#### 4.2. 調査II

調査IIでは、動詞の中から、目的語を取らずに確定未来の表現を用いることができそうな単語を筆者が選び、それぞれの単語が確定未来の表現として使用することができるか、母語話者に対する面接調査を行った。もし用いることが可能である場合は、具体的にどのような状況や場合において用いるのかを母語話者に説明してもらった。さらに、1人称、2人称のうち用いることができるものも調査した。

##### 4.2.1. 調査方法

調査Iでは筆者が例文を作成したが、その場合、母語話者に対してある程度シチュエーションを限定してしまう可能性があると考え、調査IIでは動詞の辞書形のみを用いた。動詞は、調査Iの結果で確定未来を表し得るとの回答を得た動詞、発表者が中嶋(2015b)の中から

さらに抽出した動詞の計 20 を用意した。

まず、母語話者に対して動詞の辞書形を提示し、その単語を用いて確定未来の表現が可能かを答えていただいた。その動詞が確定未来の表現を表し得るとの回答があれば、どういった状況や場合に用いることができるか、さらに 1 人称、2 人称の違いがあれば、それも答えていただいた。なお、調査IIでは、調査Iでご協力いただいたインフォーマント A、B の他に、本大学のウズベク語ネイティブ講師(ウズベキスタン出身、生年未確認)(以後、インフォーマント C とする)にも調査にご協力いただいた。

#### 4.2.2. 調査結果

調査結果を以下の表 1 に示す。確定未来の表現として使うことのできる動詞には○を、表現としてはあり得るが、使わない、使ったことはない動詞には△、過去時制のみの意味しか持ち得ないとする動詞には×を付けた。3 人とも○の回答を得た動詞については網掛けを付けた。なお、○を付けた動詞に対しては、回答者全員が、1 人称のみ使用することができ、且つ単数-dim、複数-dik の使い分けが可能であると回答した。

表 1: 調査結果II

	インフォーマント A	インフォーマント B	インフォーマント C
so'ramoq 「尋ねる」	×	×	×
ko'tarmoq 「運ぶ」	○	○	○
ushlamoq 「つかむ」	×	○	○
ketmoq 「去る」	○	○	○
davom ettirmoq 「続ける」	×	△	△
raqsga tushmoq 「踊る」	×	○	×
sakramoq 「飛ぶ」	○	○	○
yugurmoq 「走る」	○	○	○
qochmoq 「逃げる」	○	○	○
uyg'onmoq 「起きる」	○	○	○
yurmoq 「歩く」	○	○	○
ma'ruza qilmoq 「話す」	×	△	△
minmoq 「乗る」	×	○	○
kuylamog 「歌う」	×	○	×
quloq solmoq 「聞く」	×	×	×
o'ynamoq 「遊ぶ」	×	△	×
qilmoq 「作る」	×	×	×
o'zgarimoq 「変える」	○	○	△
qaytmoq 「帰る」	○	○	○
boshlamoq 「始める」	○	○	○

その他で使用可能な動詞としては以下の3つの例を得ることができた。

Olmoq 「取る」 Oldik! 「どうぞ召し上がれ／どうぞ、食べて食べて」

Turmoq 「起きる」 Turdik, turdik! 「起きよう、起きよう」

Chiqmoq 「出かける」 Chiqdik! 「でかけよう！」

回答者が作成した確定未来を用いた例文を、以下に示す。先述した通り、回答者全員から人称は1人称のみで-dim もしくは-dik という語尾をどちらとも付加できるとの回答をいただいたが、以下は語尾を-dik に統一した。

ko'tarmoq 「運ぶ」 Bu qutii og'ir! Ko'tardik! 「この箱重い!(一緒に)運ぼう！」

sakramoq 「飛ぶ」 Sakradik! 「(さあ)飛ばう！」

qaytmoq 「帰る」 Kechikdik. Qaytdik. 「もう遅い。帰りましょう」

yugurmoq 「走る」 Shoshing, yugurdik! 「急がないと、走ろう！」

qochmoq 「逃げる」 Xavfli! Qochdik! 「危ない! 逃げよう！」

インフォーマント B によると、接尾辞-di を用いて確定未来の表現を使うにあたって、以下の動詞についてはその使用方法に制限があるように感じるという。

o'ynamoq 「遊ぶ」: O'ynadik, endi! 「やらないとだめでしょう」

yurmoq 「歩く」: Yurdik, yurdik 「歩こう歩こう」

minmoq 「乗る」、kuylamoq 「歌う」: Ketdik, mindik (kuyladik). 「乗りましょう(歌いましょう)」

インフォーマント C によると、Ketmoq 「去る」は、Ketdik. 「行きましょう」という表現の他に、勧誘表現として疑問を表す接尾辞-mi を付加させることで用いることも可能だという(Ketdikmi?-Ketdik. 「行きましょうか?—行きましょう」)。さらに、接尾辞 -di を使用した確定未来を指す用法は、ロシア語の用法の影響を受けているのではないか、という意見を得た。ロシア語の用法には確定未来の表現と似た、一瞬の行動を示す表現がある<sup>3</sup>。

#### 4. 2. 3. 調査Ⅱのまとめ及び反省

調査Ⅱの結果において、確定未来を用いる場合において用いることができるとの回答を得られた動詞は、ko'tarmoq 「運ぶ」、uyg'onmoq 「起きる」、ketmoq 「行く」、yurmoq 「歩く」、sakramoq 「飛ぶ」、qaytmoq 「帰る」、yugurmoq 「走る」、boshlamoq 「始める」、qochmoq 「逃げる」の9つであった。さらにそれらを用いて確定未来を表す場合、目的語は取らずにその動詞のみで表現するようだ。インフォーマントによっては語を重ねるという回答や、特定の動詞を付属する、もしくは語を重ねなければ使うことはないとする例もあった。インフォーマント C によると、勧誘表現として疑問を表す接尾辞-mi を用いて言うこともあるという。さらに、こうした確定未来の表現は、ロシア語の文法における表現の影響もあるのではとの回答を得た。

<sup>3</sup> 林田(2009)によれば Апресян(1988)(筆者未見)などの研究において、ロシア語には「瞬間動詞」という分類が存在し、その中に「新しい状態への移行」「瞬時的1回動作」といった意味を持つ表現があるという。

## 5. 結論

確定未来の表現を作りうる動詞の条件としては、目的語を用いた場合では作ることはいできない。さらに、動詞もある程度限定的であるようだ。動詞は目的語を取らない形且つ 1 人称でのみ用いられ、それが示す状況としては発言直後の一瞬の行動を指すものが多いようだ。人称については 1 人称のみという調査結果を得たが、-dim で意志を表し-dik で勧誘の表現を表すといったニュアンスの変化もある。表すことの出来得る時間の範囲は限られ、約一日である。さらに、こうした用法は、ロシア語文法による影響である可能性も挙げられた。もしそうであった場合、母語話者の住む地域によって影響の差が生じている可能性や、世代における差の可能性も考慮する必要があるだろう。今後は更に多くの母語話者に対して調査を行い、傾向をつかんでいく必要がある。

## 6. 今後の課題

今回の調査では、計 3 人のウズベク語母語話者の協力をいただいたが、今後は地域差や世代差等も踏まえ、更に調査範囲を広げていくことが必要である。更なるシチュエーションの絞りこみや、インフォーマント B の回答にあった、限定的な用法についても今後調査すべき課題である。さらに、ネイティブ講師の意見にあった、ロシア語の影響や、誤用からの定着によるものも考えるため、そうした観点からの調査をすることによってさらに確定未来を表し得る動詞の規則性が見えてくるのではないだろうか。

**略号一覧** 1: 1 人称 / 2: 2 人称 / CONV: 副動詞 / DAT: 与格 / PL: 複数 / POSS: 所有 / PRS: 現在 / PST: 過去 / PTCP: 形動詞 / Q: 疑問標識 / SG: 単数 / VN: 動名詞 / = 接語境界

**参考文献** Abdurahmonov, G'. A. va Sh. Sh. Shoabdurahmonov, A. P. Hojiyev (1975) *O'zbek tili grammatikasi I tom Morfologiya*. Toshkent: O'zbekiston SSR «Fan» nashriyoti. / Апресян, Ю. Д. (1988) Глаголы моментального действия и перформативы в русском языке. *Русистика сегодня. Язык: система и ее функционирование*. Москва: Наука. / Bodrogligeti, András J. E. (2003) *An academic grammar of Modern Literary Uzbek*. München: Lincom Europa. / ハルナザロフ, マムルジョン (2010) 「ウズベク語 (データ: 「アスペクト」、テーマ企画: 特集「アスペクト」)」『語学研究所論集』15. 348-354. / 林徹 (2013) 『トルコ語文法ハンドブック』東京: 研究社. / 林田理恵 (2009) 「いわゆる「瞬間動詞」について: ロシア語動詞アスペクト分析」『言語文化研究』35. 221-241. / Kononov, Andrey N. (1960) *Grammatika sovremennogo uzbekskogo literaturnogo jazyka*. Moskva, Leningrad: tipografiya Akademii Nauk SSSR. / 中嶋善輝 (2015a) 『簡明ウズベク語文法』大阪: 大阪大学出版会. / \_\_\_\_\_ (2015b) 『簡明ウズベク語辞典』大阪: 大阪大学出版会. / 庄垣内正弘 (1988) 「ウズベク語」亀井孝・河野六郎・千野栄一(編著)『言語学大辞典 第1巻 世界言語編(上) あ〜こ』829-833. 東京: 三省堂.

**参考資料** ウズベキスタン地図 <http://www2m.biglobe.ne.jp/ZenTech/world/map/Uzbekistan/index.htm> (最終閲覧日 2017 年 1 月 5 日)